

# 「那覇市 2 学期制の検証報告書」

平成 30 年 3 月  
那覇市教育委員会  
学 校 教 育 課

## 目 次

はじめに	1
I 検証について	2
1 検証の目的	
2 検証の具体的方法	
(1) 2学期制導入の目的	
(2) 検証する項目	
実施当初の予想された教育効果	
実施当初の予想された問題点	
3 「那覇市2学期制検証に係るアンケート」実施概要	
II アンケートの結果とまとめ（小学校・中学校）	4
1 事務業務の整理について	
2 学校行事の在り方と授業時数の確保について	
3 個々の児童・生徒の対応について	
4 秋季休業日（秋休み）期間中の子供たちの体験活動について	
5 学力の向上について	
6 長期休業を含めた、子供の学習指導と評価及び学習面への対応について	
7 子供の学習状況を知る機会について	
8 秋季休業日（秋休み）設置による生徒指導上の課題について	
III 校長連絡協議会での協議内容について	12
IV 那覇市2学期制検証委員会のまとめ（小学校・中学校）	13
1 まとめと今後の方向性	
2 今後の取り組むべき課題	
3 検証委員会からの提言	
V アンケートの結果とまとめ（幼稚園・認定こども園）	14
VI 那覇市2学期制検証委員会のまとめ（幼稚園・認定こども園）	17
巻末資料	18
資料1 「那覇市2学期制検証委員会設置要綱」	
資料2 「2学期制検証委員会委員一覧」	
資料3 「検証経過」	
資料4-1 「那覇市2学期制検証に係るアンケート」小学校教員用	
4-2 「那覇市2学期制検証に係るアンケート」中学校教員用	
4-3 「那覇市2学期制検証に係るアンケート」小・中学校保護者用	
4-4 「那覇市2学期制検証に係るアンケート」幼稚園教諭・こども園保育教諭用	
資料5 「平成15年度版リーフレット」	
すべての子に生きる力を育むために ～ 2学期制の実施に向けて ～	

## はじめに

那覇市教育委員会では、平成18年度より、国の教育改革の動きや学校の課題等を踏まえ、教育環境の変化への対応や学校の課題解決のため、それまでの教育活動を見直し、市内幼稚園及び市内全小・中学校において「2学期制」を導入しております。

その後、平成20年度に改訂された学習指導要領では、「生きる力」を育成する基本理念は変わらないものの、年間授業時数の増加と「確かな学力の向上」を目指し、本市教育委員会では更なる充実を目指して平成24年度より各中学校区ごとに「小中一貫教育」を導入し、平成28年度より全校で実施されております。

さらに、新しい学習指導要領においては、「生きる力」をより具体化し、学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進すること、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出し、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められております。

このように新しい時代への対応が求められているこの機会を捉え、「2学期制」の導入時に期待されていた効果について検証を行い、今後の方向性を見だし、学校教育の充実を図る必要があります。

そのため本市教育委員会では、今年度、「那覇市2学期制検証委員会」を設置し、教職員や保護者に対してアンケートを実施し、意見等を広く集め、様々な角度から検証を進めてまいりました。

なお、本報告書は、本市の今後の学期制の在り方について、参考とするものであります。

# I 検証について

## 1 検証の目的

那覇市 2 学期制検証委員会を設置し、教職員、保護者の立場からの意見等を広く集め、アンケートの実施や分析を行い、様々な角度から検証を行い、今後の学期制の在り方について検討を行う。

※設置要綱、委員、検証経過については、巻末資料：資料 1・資料 2・資料 3 を参照

## 2 検証の具体的方法

平成 18 年 2 月に作成された「那覇市立学校 2 学期制報告書」に示されている、「2 学期制導入の目的」が実現されているのか検証を行うために、平成 15 年に作成されたリーフレット「すべての子に生きる力を育むために ～ 2 学期制の実現に向けて～」に示されている「予想される教育効果」と「予想される問題点」を検証項目とした。

それを基に、那覇市 2 学期制検証委員会において「那覇市 2 学期制検証に係るアンケート」教員（幼稚園・認定こども園、小学校、中学校）用と保護者（小学校、中学校）用を作成・送付・回答集計を行い、その結果と全国学力・学習状況調査等の結果を併せ、校長連絡協議会における協議内容も踏まえて検証を行った。

### (1) 2 学期制導入の目的：「那覇市立学校 2 学期制報告書」（平成 18 年 2 月）

本市は、幼児・児童・生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせ、「豊かな心」などを育むために、2 学期制を平成 18 年度から全ての市立幼稚園、小学校、中学校において実施する。

### (2) 検証する項目：「平成 15 年度版リーフレット」（巻末資料：資料 5）

すべての子に生きる力を育むために ～ 2 学期制の実施に向けて ～  
実施当初の予想された教育効果

- ① 学校行事（始業式・終業式、定期テスト等）の在り方を検討し、授業時数の確保を図ることで、児童生徒や教師に時間的・精神的なゆとりを生み出し、確かな学力の向上及び豊かな心を育成することができる。
- ② 総合的な学習の時間や体験活動などが、長期休業を含む長いスパンでダイナミックに計画・実行することができるため、「学びの連続」の中で子供自ら学習の計画を立てたり問題の解決を図ることが、より一層可能になる。
- ③ これまでより長いスパンで、教師は多面的に、よりの確に子供の学習状況を評価することができるようになる。
- ④ 教師の事務業務が整理された分、これまで以上に個々の児童生徒に対応することが可能になる。

実施当初の予想された問題点

- ① 学力低下につながらないか
- ② 通知票や定期テストの回数が減ることで、
  - ・学校での子供の様子を知る機会が減るのではないか
  - ・児童・生徒の実態把握が難しくなるのではないか
  - ・学習への動機付けが低下するのではないか

### 3 「那覇市 2 学期制検証に係るアンケート」実施概要

那覇市 2 学期制検証委員会では、2 学期制を導入する際に、予想された教育効果と予想された問題点に関する検証を行うため、教員と保護者に対して、以下の内容でアンケート調査を実施した。

※実際のアンケートについては、巻末資料：資料 4-1 ～ 資料 4-4 を参照

#### (1) 対象者

##### ①教員用（全教員）

幼稚園・認定こども園：幼稚園・こども園長、幼稚園教諭、認定こども園保育教諭  
小・中学校：校長、教頭、教諭（臨任・非常勤含む）

##### ②保護者用

児童・生徒が同校種内（小学校内、中学校内で異学年にまたがる場合）であれば、1枚のみの回答で可とし、異校種（小学校、中学校にまたがる場合）の所属であれば、それぞれで1枚ずつの回答とした。

また、統計学において、有効な信頼水準を得るために、各学校、各学年1クラス以上の回答とした。

#### (2) 実施期間

①教員用：平成 29 年 7 月 18 日(火)～7 月 31 日(月) 提出：平成 29 年 8 月 18 日(金)

②保護者用：平成 29 年 7 月 18 日(火)以降、学校で設定 提出：平成 29 年 9 月 15 日(金)

#### (3) アンケート回答数（平成 29 年 9 月 22 日集計）

##### ①教員用

	幼稚園・認定こども園	小学校	中学校
回答数（人）	1 9 8	8 5 9	4 6 0
全職員数（人）	2 1 1	1,0 9 3	6 1 2

##### ②保護者用

	小学校	中学校
回答数（人）	4,3 2 0	2,0 8 7

実際に得られた回答数についても、統計学において、有効な信頼水準を満たしており<sup>※1</sup>、那覇市内の幼稚園・こども園、小・中学校の全教員、小・中学校の全保護者<sup>※2</sup>の傾向を把握するために必要な回答数となっている。

※1 母集団に対して誤差値 3%以内、信頼度 99%の確率で一致

※2 参考（平成 29 年 5 月 1 日現在）市内小学校全児童数：19,869 人 市内中学校全生徒数：9,029 人

## II アンケートの結果とまとめ（小学校・中学校）

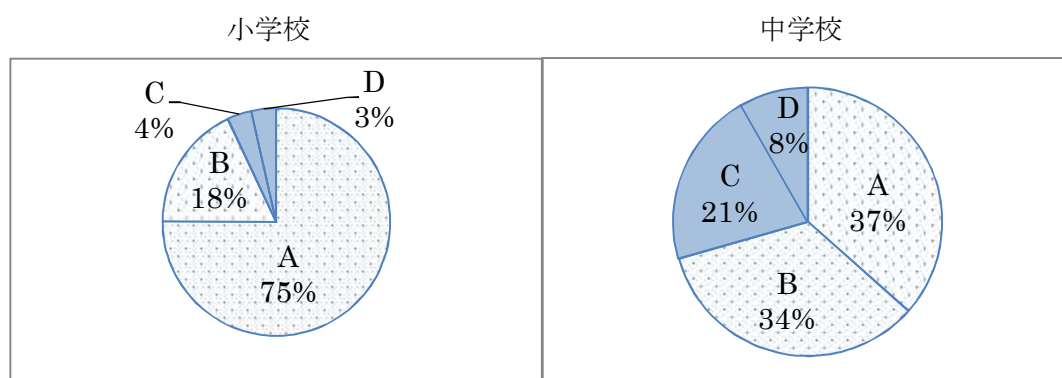
### 1 事務業務の整理について

#### 教員アンケート結果

「3学期制と比べ、学期末等の業務は、軽減されている」

教職に就いてから「3学期制」の経験がある教員のみ回答

（小学校：659人/859人中、中学校：350人/460人中）



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

#### まとめ

3学期制と比べた学期末等の業務軽減については、小・中学校の教員において、A・Bの合計がそれぞれ93%、71%の割合となっている。

また、教員だけでなく保護者からも、「学期末の事務の軽減が、多忙化解消につながっている」との意見が多く見られる。

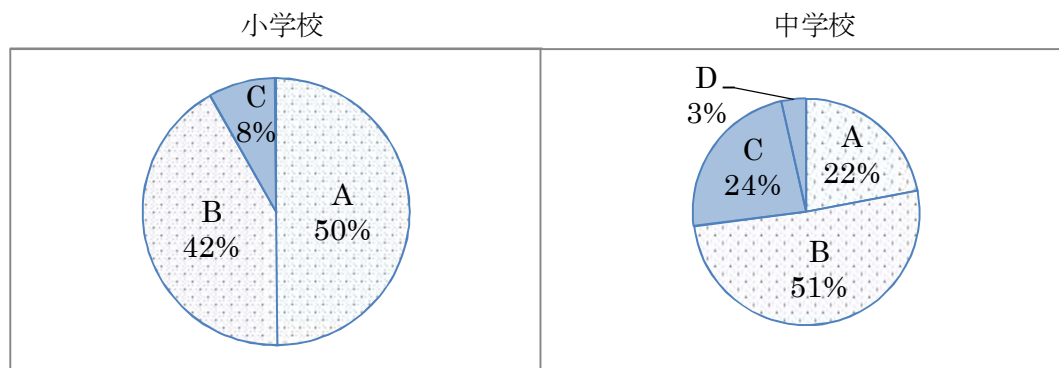
このことから、2学期制の中で、各学校では、教師の事務業務が整理や業務の軽減が図られ、これまで以上に個々の児童・生徒に向き合う時間が生み出されていると考えられる。

一方で、教員の中には、「長期休業前の面談資料作成や進路事務などがあり、事務量にあまり差はない」との意見も見られる。

## 2 学校行事の在り方と授業時数の確保について

### 教員アンケート結果

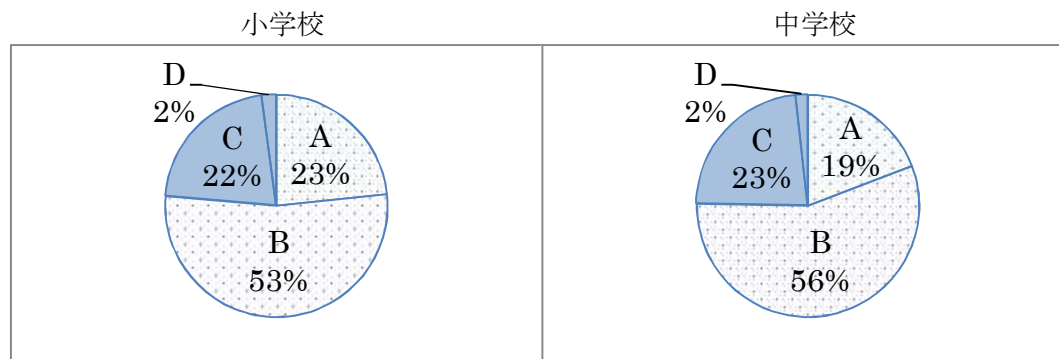
「授業時数確保のため、学校行事の見直しを行い、計画的に実施している」



「A : よくあてはまる」、「B : ややあてはまる」、「C : あまりあてはまらない」、「D : 全くあてはまらない」

### 保護者アンケート結果

「子供一人一人の良さが生かされる学校行事が行われている」



「A : よくあてはまる」、「B : ややあてはまる」、「C : あまりあてはまらない」、「D : 全くあてはまらない」

### まとめ

授業時数確保のための学校行事の見直しについては、小学校、中学校の教員において、A・Bの合計が、それぞれ92%、73%の割合となっている。

小学校、中学校の保護者においては、A・Bの合計は、それぞれ76%、75%となっている。

また、教員からは「学校行事の日程がとりやすくなり、授業時数が確保されている」等の意見も多く見られ、教員だけでなく保護者からも、「子供たちは、学期前半、後半の意識付けが定着している」との意見も見られる。

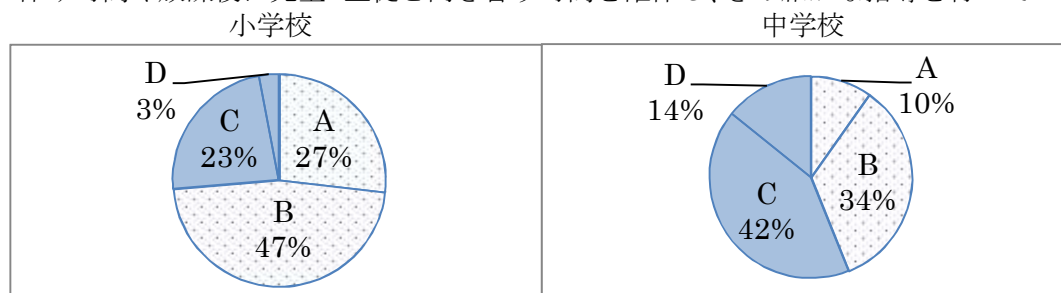
このことから、2学期制の中で、各学校では、学校行事の見直しが行われ、そのことが、授業時数の確保につながっており、子供たちにとっても2学期制が定着していると考えられる。

一方で、教員、保護者から「学期の区切りが中途半端」という意見も見られる。

### 3 個々の児童・生徒の対応について

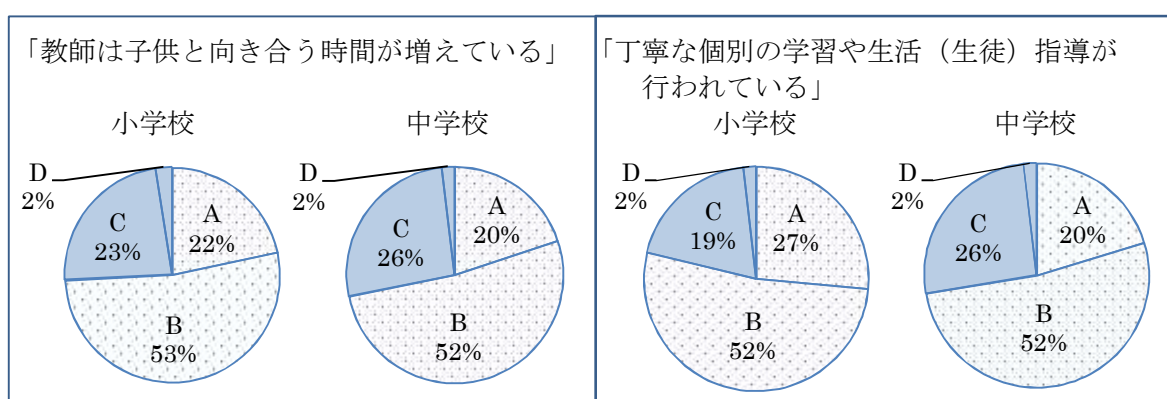
#### 教員アンケート結果

「休み時間や放課後に児童・生徒と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導を行っている」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

#### 保護者アンケート結果



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

#### まとめ

児童生徒と向き合う時間の確保については、小学校は学級担任制で、中学校は教科担任制という違いもあり、小学校の教員のA・Bの合計が74%、中学校の教員のA・Bの合計は44%となっていると考えられる。また、「学期末業務の軽減等により、子供と向き合う時間が確保されている」との意見も多く見られる。

教師が子供と向き合う時間については、小学校の保護者においては、A・Bの合計が75%、中学校の保護者のA・Bの合計が、72%の割合となっている。

丁寧な個別指導や生活（生徒）指導については、小学校の保護者のA・Bの合計が、79%、中学校の保護者のA・Bの合計が、73%の割合となっている。

このことから、2学期制の中で、中学校教員においては、休み時間や放課後に生徒と向き合う時間の確保が難しくなっていることが考えられるが、小学校教員や小・中学校の保護者においては、子供たちと向き合う時間の確保し、きめ細やかな指導につながっていると考えられる。

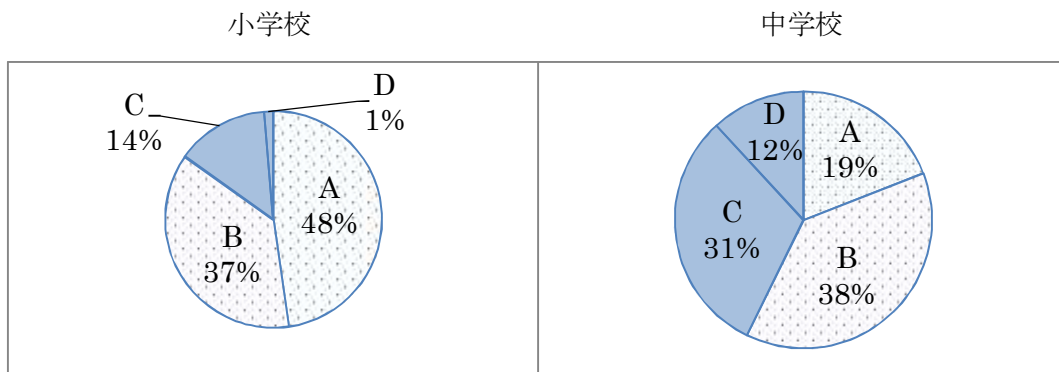
一方で、教員において、「児童・生徒一人一人にゆとりを持って向き合えていない」との意見も見られる。



#### 4 秋季休業日（秋休み）期間中の子供たちの体験活動について

##### 教員アンケート結果

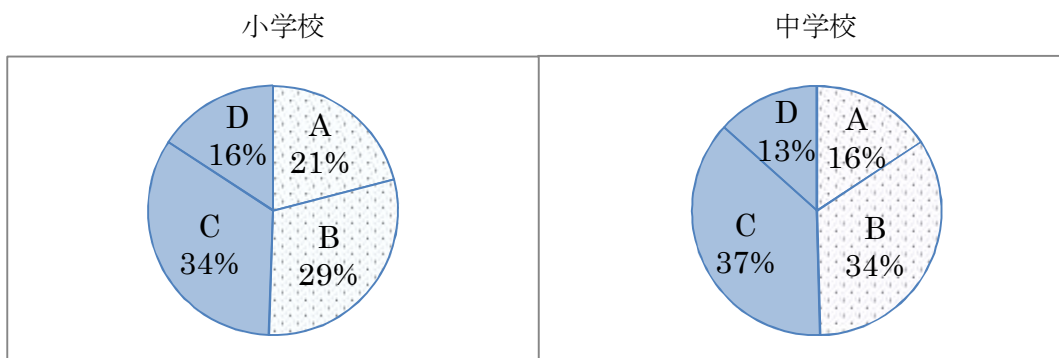
「児童・生徒にとって、秋季休業日は家庭や地域で様々な体験的な活動ができる機会となっている」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

##### 保護者アンケート結果

「家庭では、秋季休業日（秋休み）を有効（計画的）に活用している」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

##### まとめ

秋季休業日（秋休み）における体験的な活動については、小学校の教員のA・Bの合計が85%、中学校の教員のA・Bの合計が57%となっている。

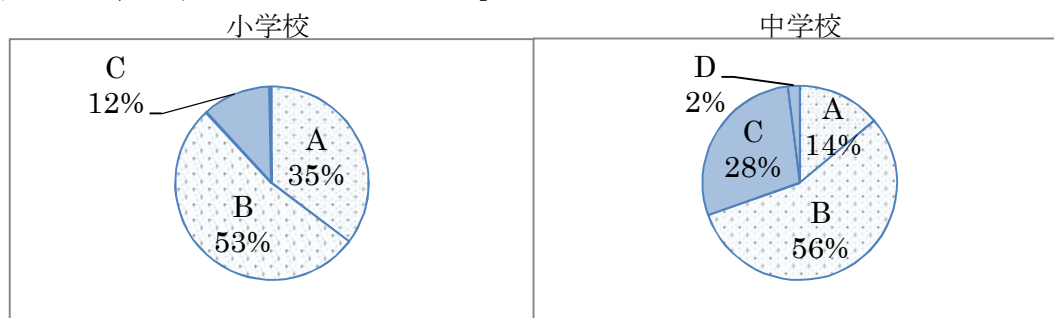
家庭での秋季休業日（秋休み）の活用については、小学校、中学校の保護者共に、A・Bの合計の割合が50%となっている。

このことから、今後、各中学校区の青少年健全育成協議会を中心にした「旗頭フェスタ」の取組や地域の人材を活用し、秋休み期間中に開催されている「那覇大綱挽き」等を地域の文化と歴史を学ぶ機会とするなど、地域人材を活用し、家庭と地域の教育力の充実を図る必要があると考えられる。

## 5 学力の向上について

### 教員アンケート結果

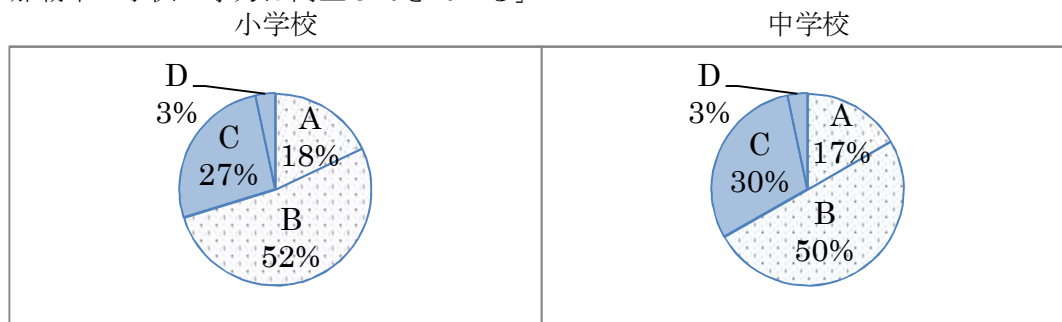
「児童・生徒の学力は向上してきている」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### 保護者アンケート結果

「那覇市の子供の学力は向上してきている」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### 全国学力・学習状況調査結果

全国平均正答率を基準0としたときの那覇市平均正答率

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成19年度(%)	-2.2	-5.0	-1.6	-4.3	-7.3	-6.0	-11.8	-13.0
平成29年度(%)	+0.5	+2.5	+3.4	+4.1	-2.4	-2.2	-2.1	-2.8

#### まとめ

児童・生徒の学力向上について、小学校・中学校の教員においては、A・Bの合計が、それぞれ88%、70%の割合となっている。小学校、中学校の保護者においては、A・Bの合計が、それぞれ70%、67%となっている。

また、教員だけでなく保護者からも「学力も向上してきており、ゆとりのある中で子供たちへの対応できている」との意見が見られる。

このことから、2学期制の中で、各学校において、児童生徒の学力は、向上していると考えられる。実際、全国学力・学習状況調査の正答率の変容を見てみると、平成29年度は、平成19年度と比較しても、小学校では、全教科において全国平均以上、中学校では、全教科において全国平均3%以内と全国平均に近づいており、2学期制の中で年々学力も向上してきていることが把握できる。

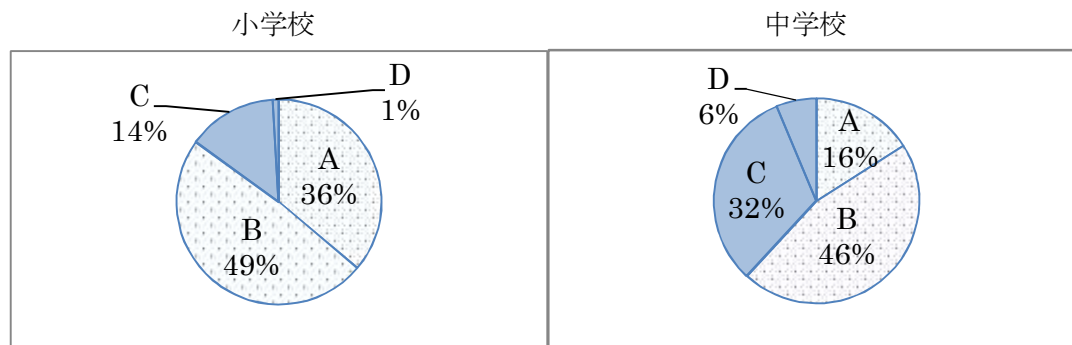
一方で、教員からは、「学力向上は学期制によるものではない」との意見も見られる。

## 6 長期休業を含めた、子供の学習指導と評価及び学習面への対応について

### 教員アンケート結果

「小学校：長期休業を含めた学びの連続性が指導や評価に活かされている」

「中学校：長期休業を含めた長いスパンで生徒の学習面への対応がしやすい」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### まとめ

長期休業を含めた、子供の学習指導と評価については、小学校の教員のA・Bの合計が85%の割合となっている。

長期休業を含めた、子供の学習面への対応については、中学校の教員のA・Bの合計が、62%の割合となっている。

また、教員から、「評価材料の多さなどから子供たちをしっかりと評価できる」、「单元ごとにテストを実施し、指導や評価につながるよう工夫している」との意見や、保護者からは、「学校から評価方法等の説明が丁寧にある」との意見が見られた。

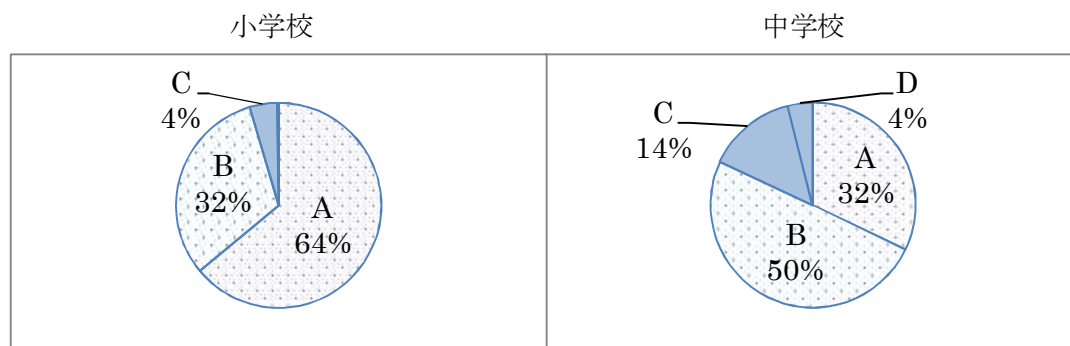
このことから、2学期制の中で、小学校においては、日常の授業において学びの連続を生かしながら、教育活動が行われており、中学校においても、長いスパンで子供の学習面への対応ができており、評価についても各学校で工夫されていることが考えられる。

一方で、保護者の中には、評価回数や定期テストが減少することに対して、懸念する意見も見られる。

## 7 子供の学習状況を知る機会について

### 教員アンケート結果

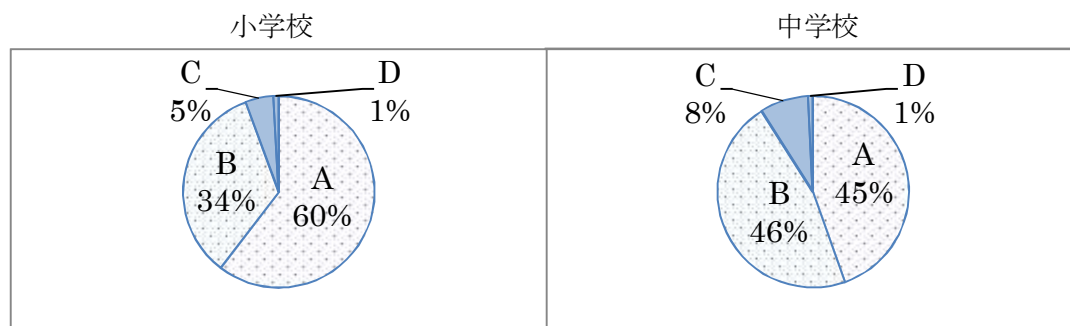
「長期休業前に保護者が学習状況を知る機会がある」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### 保護者アンケート結果

「夏休みや冬休み前には、学校から学習状況などについて説明を受けている」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### まとめ

子供の学習状況を知る機会については、小学校、中学校の教員においてA・Bの合計がそれぞれ、96%、82%の割合となっている。

保護者への学習状況の学校説明については、小学校・中学校の保護者においてA・Bの合計がそれぞれ、94%、91%との割合となっている。

また、教員からは、「個人面談等により学習状況が伝わるよう工夫している」という意見や保護者からは、「面談により学習意欲につながった」との意見も見られる。

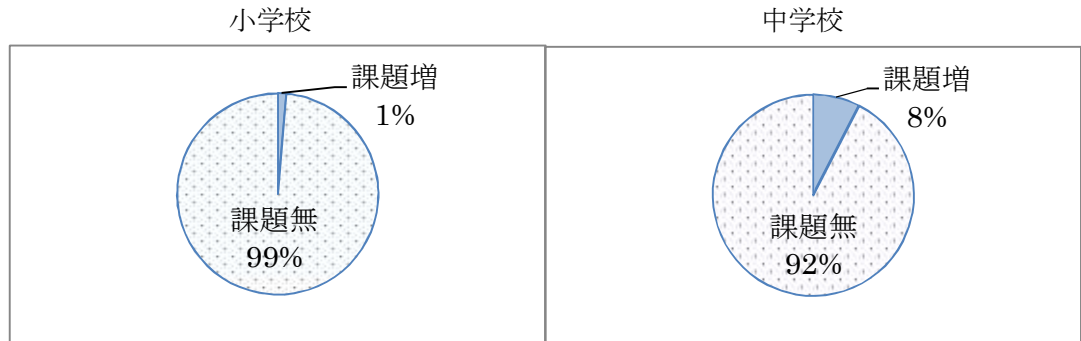
このことから、2学期制の中で、各学校においては、保護者に対して長期休業前に子供の学習状況を知らせる場を設定していると考えられ、保護者においては、長期休業前の各学校からの説明により、子供の学習状況を把握していると考えられる。

一方で、保護者から「長期休業前に、よいこのあゆみや通知票をもらいたい」との意見が見られる。

## 8 秋季休業日（秋休み）設置による生徒指導上の課題について

### 教員アンケート結果

「秋季休業日が設置されたことで生徒指導の課題が増えた」



「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### まとめ

秋季休業日（秋休み）の設置による生徒指導上の課題については、小学校、中学校の教員において、「課題無」がそれぞれ、99%、92%の割合となっている。

また、教員から「秋休みが子供たちにとって、行事後の回復期間になる」との意見も見られ、保護者から「2学期を迎える前に、気持ちの切り替えができる」との意見も見られる。

このことから、秋季休業日（秋休み）の設置は、各学校の生徒指導上の問題に対して、大きな課題にはならないと考えられる。

一方で、教員から「秋休みで生活リズムが乱れる」との意見や、保護者から「秋休みがとれない家庭は、子供に目が行き届かない」との意見が見られる。

### Ⅲ 校長連絡協議会での協議内容について

平成 29 年 9 月 29 日（金）に開催された第 4 回校長連絡協議会において、那覇市 2 学期制のさらなる充実を目指した協議を深めていくための資料として、「那覇市 2 学期制検証に係るアンケート」の教員用・保護者用の集計結果を示し、「各学校での成果及び改善が必要だと思われる現在の状況報告」と「各学校で実践している改善策」について協議を行った結果、主に以下のような意見があげられた。

#### 2 学期制に肯定的な主な意見

- 2 学期制になって、授業時数の確保、学力向上、子供たち個々への対応を行うことができた。
- 各学校において、2 学期制の実施に伴い秋休みがあることで、夏休み期間中に夏季休暇を取りにくい職員のリフレッシュに繋がっている。
- 2 学期制を導入することで、行事の見直し・授業の見直しが十分なされており、「教師の意識改革」につながっている。
- 2 学期制で著しく課題があるのであれば、2 学期制を見直す必要はあると思うが、アンケート結果からは大きな課題は見られず、成果が大きく出ている。

#### 2 学期制で懸念される主な意見

- 2 学期制においても教員の多忙感は改善したとはいえない。
- 保護者は 2 学期制の経験がない方が多く、自分が経験してきたことでしか判断できないので、2 学期制の良さを保護者へどう説明するかが課題である。
- 部活動の大会などは、3 学期制を導入している他地区との対外行事の日程が変わらないので、調整が難しいことがある。
- 定期テストの減少により、子供や保護者に学習の成果が分かりにくくなっている。

#### その他の意見

- この 10 年で学力の成果が見られる。2 学期制導入だけの成果ではないかもしれないが、様々な取組が功を奏しているのではないか。
- 多忙感の解消は学期制の問題ではなく、また別の問題ではないか。
- 今後、2 学期制を充実させるために、どのようにより良くしていくかを考えるべきではないか。

## IV 那覇市 2 学期制検証委員会のまとめ（小学校・中学校）

### 1 まとめと今後の方向性

アンケート集計結果と校長連絡協議会の協議内容も踏まえて協議した結果、予想された教育効果については、2 学期制導入後、学習指導と生徒指導面で多くの成果が見られた。

また、懸念された問題点については、細かな課題はあるものの各学校で適切に対応されていることが把握できた。

これらを踏まえ、2 学期制検証委員会では、市内全小・中学校において「2 学期制」を継続することが望ましいと考える。

ただし、校長連絡協議会で懸念された意見については、今後、教育委員会と学校が連携して改善していく必要がある。

なお、今後は、国や県の動向に注視しながら、必要に応じて検証していくことが望ましいと考える。

### 2 今後の取り組むべき課題

- (1) 教職員の多忙化の解消に向けて取り組む必要がある。
- (2) 保護者が学習評価について知る機会が少ない。
- (3) 教職員や保護者、地域の方々が那覇市の 2 学期制の内容等について知る機会が少ない。
- (4) 約半数の家庭において、秋休みが有効に活用されていない。

### 3 検証委員会からの提言

今後の取り組むべき課題それぞれに対して、以下 4 つの提言を示す。

#### **(1) 全小中学校への校務支援システム導入** 【教育委員会において取り組む内容】

市内全小中学校において、新校務支援システムを導入し、教員の業務軽減につなげていくことが大切である。

#### **(2) 子供の学習の成果を知る機会の充実** 【各学校において取り組む内容】

各学校において、保護者会等で評価方法の丁寧な説明が行われており、多くの保護者が理解している。今後も引き続き、保護者に十分に説明を行い、理解を得ることが大切である。

#### **(3) 那覇市 2 学期制の検証結果の公表** 【教育委員会・各学校において取り組む内容】

2 学期制の内容等について、本報告書の HP 公開や各学校配布を行い、各学校においては、保護者に説明ができるようにしていくことが大切である。

#### **(4) 「秋休み」の有効活用** 【教育委員会において取り組む内容】

大人と子供が向き合い休み方の改革を進めるための「キッズウィーク」<sup>※</sup>を活用するなど、地域の教育力を活用した取組で、秋休みの有効活用につなげていくことが大切である。

<sup>※</sup> 国では、平成 30 年度から地域ごとに「キッズウィーク」を設定し、学校休業日の分散化、有給休暇取得の推進、休日における多様な活動機会の確保の取組を官民一体として推進することを目的に、大人と子供が向き合い休み方改革を進めるための「キッズウィーク」総合推進会議を開催している。

## V アンケートの結果とまとめ（幼稚園・認定こども園）

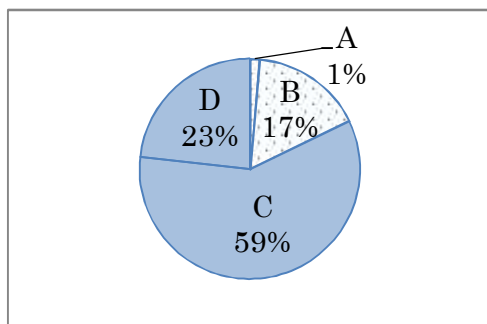
### 1 事務業務の整理について

#### 教員アンケート結果

教職に就いてから「3学期制」の経験がある教員のみ回答

（幼稚園・こども園：73人/198人中）

「3学期制と比べ、学期末等の業務は、軽減されている」



#### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員においてA・Bの合計が18%の割合となっている。

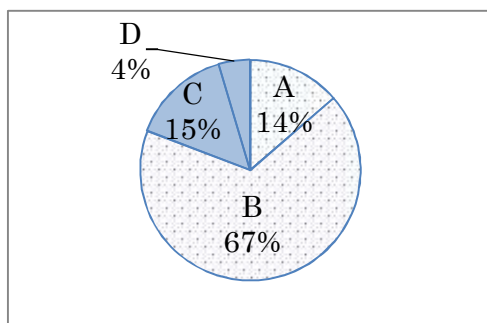
各園では、担任の事務業務が増えており、学期制の問題と捉えることができないことが考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### 2 学校行事について

#### 教員アンケート結果

「幼児の生活サイクルバランスのため、行事の見直しを行い、計画的に実施している」



#### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員においてA・Bの合計が81%の割合となっている。

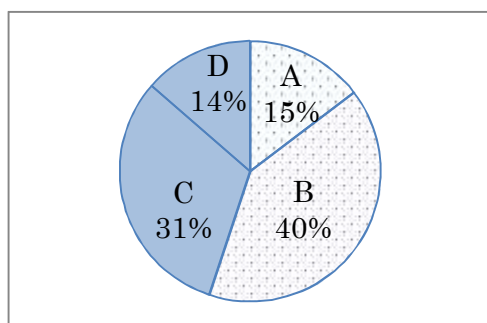
このことから、2学期制の中で、各園では、学校行事の見直しが行われ、計画的に実施されていると考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

### 3 個々の幼児の対応について

#### 教員アンケート結果

「夏休みを利用して個人面談や個別指導を要する園児と向き合う時間を確保している」



#### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員において、A・Bの合計が55%の割合となっている。

これについては、各園では、年間を通して個別指導が行われており、夏休みを利用した指導も行われていることが考えられる。

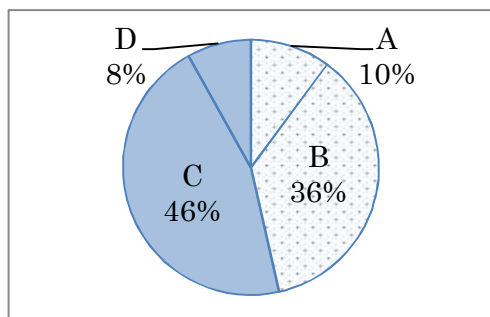
「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」



#### 4 秋季休業日（秋休み）期間中の幼児の体験活動について

##### 教員アンケート結果

「幼児にとって「秋季休業日」は家庭や地域で様々な体験的な活動ができる機会となっている」



##### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員においては、A・Bの合計が46%の割合となっている。

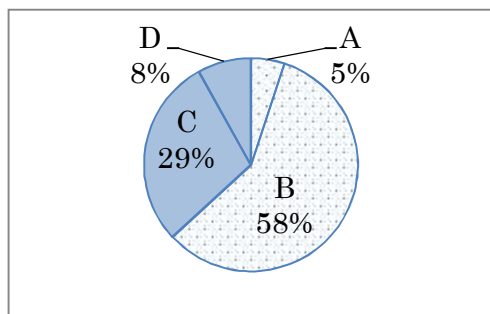
これについては、子育て支援の観点から保育サービスの拡充により、秋季休業日（秋休み）も登園する園児がいることが考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

#### 5 生活リズムの向上について

##### 教員アンケート結果

「保護者の理解を得て、園児の生活リズムが向上している」



##### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員において、A・Bの合計が、63%の割合となっている。

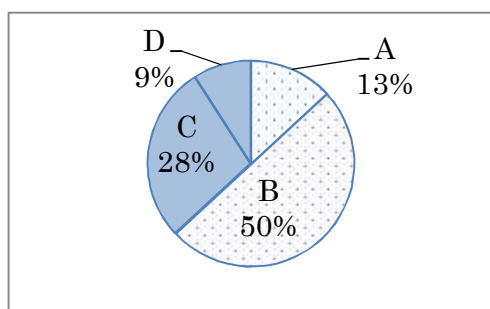
このことから、各園における2学期制の長いスパンの中での継続した指導が、園児の生活リズムの向上につながっていると考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

#### 6 長いスパンによる、幼児の遊びの充実と評価について

##### 教員アンケート結果

「1学期または、2学期の長いスパンで園児の遊びの充実を図り、成長の姿を把握できる」



##### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員において、A・Bの合計が、63%の割合となっている。

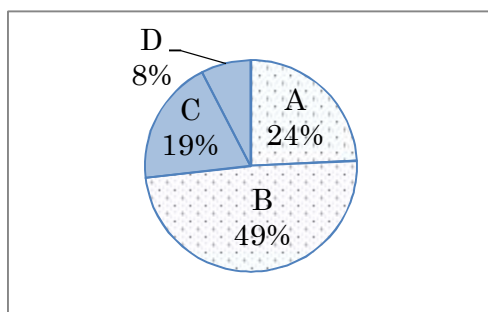
このことから、2学期制の中で、各園では、園児の遊びの充実を図り、成長の姿を把握できていると考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

## 7 幼児の様子を知る機会について

### 教員アンケート結果

「保護者が園児の様子や成長の姿を知る機会がある」



#### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員においてA・Bの合計が、73%の割合となっている。

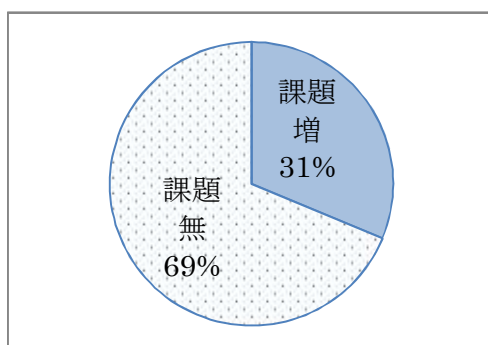
このことから、2学期制の中で、各園では、保護者に対して、子供の様子を知らせる機会を設定していると考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

## 8 秋季休業日（秋休み）設置による課題について

### 教員アンケート結果

「秋季休業日が設置されたことで課題が増えた」



#### まとめ

幼稚園・認定こども園の教員において、秋季休業日（秋休み）後の生活リズムの指導が必要であるとの意見もあるが、「課題無」が69%の割合となっている。

このことから、秋季休業日（秋休み）の設置は、各園の教育活動に大きな課題にはならないと考えられる。

「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：全くあてはまらない」

## VI 那覇市2学期制検証委員会のまとめ（幼稚園・認定こども園）

### 1 まとめと今後の方向性

アンケート集計結果を踏まえて協議した結果、2学期制導入後、学校行事が計画的に実施されており、園児の生活リズムの向上及び長いスパンで遊びの充実を図り、成長の姿を把握できているなどの成果が見られた。

これらのことから、2学期制検証委員会では、市内全幼稚園・認定こども園においても「2学期制」を継続することが望ましいと考える。

ただし、懸念された意見については、今後、こども政策課と幼稚園や公立こども園が連携して改善していく必要がある。

なお、今後は、国や県の動向に注視しながら、必要に応じて検証していくことが望ましいと考える。

### 2 今後の取り組むべき課題

- (1) 秋季休業日（秋休み）後の生活リズムの指導が必要である
- (2) 教職員の多忙化の解消に向けて取り組む必要がある。
- (3) 教職員や保護者、地域の方々が那覇市の2学期制の内容等について知る機会が少ない。

### 3 検証委員会からの提言

那覇市では、幼稚園と保育所の長所を併せ持つ「幼保連携型認定こども園」へ市立幼稚園を年次的に移行しており、平成31年度には、全36園が認定こども園となる計画をしている。

それらも踏まえ、今後の取り組むべき課題それぞれに対して、以下3つの提言を示す。

#### (1) 園児の生活リズムの定着を図る工夫 【各園において取り組む内容】

秋休み期間中も1号認定<sup>※1</sup>、2号認定<sup>※2</sup> 園児の生活リズムの定着を図る工夫を継続することが大切である。

#### (2) 那覇市立こども園への 職員の加配（週休代替や園務補助員）等

【こども政策課において取り組む内容】

加配を配置することで、教員の業務軽減につなげていくことが大切である。

#### (3) 那覇市2学期制の検証結果の公表 【こども政策課・各園において取り組む内容】

2学期制の内容等について、本報告書の各学校配布を行い、各幼稚園・認定こども園においては、保護者に説明ができるようにしていくことが大切である。

※1 1号認定とは、教育を必要とする園児で秋休みを取る園児（家庭に保護者がいる）

※2 2号認定とは、共働き家庭で保育を必要とする園児

## 那覇市 2 学期制検証委員会設置要綱

(平成 29 年 5 月 18 日 那覇市教育委員会教育長決裁)

(目的)

第 1 条 那覇市立の幼稚園、小学校及び中学校（以下「市立幼小中学校」という。）で導入されている 2 学期制実施に係る成果及び課題等について検証するため、那覇市 2 学期制検証委員会（以下「検証委員会」という。）を設置する。

(任務)

第 2 条 検証委員会は教育長の要請により、次に掲げる事項について検証をし、市立幼小中学校における 2 学期制に関する報告書を教育長に提出する。

- (1) 2 学期制実施に係る成果及び課題等に関する事項
- (2) 今後の具体的な方向性に関する事項

(構成)

第 3 条 検証委員会の委員は、次の各号に掲げる者を教育長が委嘱する。

- (1) 市内小中学校長代表
- (2) 市内幼小中学校教諭代表
- (3) 教育行政関係者
  - ① 学校教育部長
  - ② 学校教育部副部長
  - ③ 学校教育課長
  - ④ 学務課長
  - ⑤ 教育相談課長
  - ⑥ 教育研究所長
  - ⑦ 学校給食課長
  - ⑧ 生涯学習課青少年育成室長
  - ⑨ 小中一貫教育推進室長
  - ⑩ こども政策課副参事
- (4) その他教育長が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱の日から報告書作成完了までとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 検証委員会には委員長及び副委員長を置き、委員長は学校教育部長、副委員長は学校教育部副部長を充てる。

- 2 委員長は会務を統括し、会議の進行をつかさどる。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 検証委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 検証委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を求めることができる。

(事務局)

第 7 条 検証委員会の事務を処理するため、事務局を那覇市教育委員会学校教育課に置く。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、検証委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 29 年 5 月 18 日から施行する。

## 2 学期制検証委員会委員一覧

	役職	氏名	所属及び役職
1	委員長	黒木 義成	学校教育部長
2	副委員長	森田 浩次	学校教育部副部長
3	委員	平井 りい子	真和志小学校長
4	委員	安次富 功	安岡中学校長
5	委員	新島 よし乃	泊幼稚園主幹
6	委員	仲宗根 恵美	金城小学校教諭
7	委員	植前 秀一郎	小禄中学校教諭
8	委員	武富 剛	学校教育課長
9	委員	田端 睦子	学務課長
10	委員	佐久川 敏明	学校給食課長
11	委員	儀間 稔	教育研究所所長
12	委員	神谷 乗治	教育相談課長
13	委員	細田 幸弘	小中一貫教育推進室長
14	委員	島袋 元治	生涯学習課青少年育成室長
15	委員	並里 しげみ	こども政策課副参事

## 事務局

1	教育行政	馬上 晃	学校教育課指導G副参事
2	教育行政	上江洲 寛	学校教育課企画特別支援G副参事
3	教育行政	金城 豪樹	学校教育課指導G指導主事

## 検 証 経 過

	日 時	内 容	備 考
準備委員会	平成 29 年 4 月 28 日 (金) 10 : 00 ～11 : 30	○県内他市町村の状況 ○那覇市の現状 ○検証委員会設置について (1) 設置要綱 (案) (2) 委員の選定	【参加者】 部長 副部長 学校教育課長 学務課長 学校給食課長 教育研究所長 教育相談課長 小中一貫室長 指導G副参事 企画特別支援G副参事 担当指導主事
検証委員会 ①	平成 29 年 5 月 22 日 (月) 10 : 00 ～12 : 00	○役員 (委員長・副委員長) 選出 ○第 1 回検証委員会 ・これまでの成果と課題 ・協議 (質疑、意見、提言等)	【配付資料】 ・検証委員会設置要項 ・委員一覧 ・リーフレット (H15 年度作成) ・アンケート実施について
検証委員会 ②	平成 29 年 6 月 29 日 (木) 15 : 00 ～16 : 30	○第 1 回会議録の報告 ○教職員用、保護者用アンケート内容の確認	【配付資料】 ・第 1 回会議録 ・アンケート調査 (案)
アンケート	平成 29 年 7 月 6 日 (木) 各学校へ送付	○教職員用アンケート送付 ○保護者アンケート 送付・回収・集計	※アンケート結果まとめを 9/29 校長連絡協議会 10/19 教頭連絡会へ報告
校長連絡協議会	平成 29 年 9 月 29 日 (金)	○協議題 「那覇市 2 学期制の成果と 改善事項について」	アンケート結果を踏まえた協議
教頭連絡会	平成 29 年 10 月 19 日 (木)	「那覇市 2 学期制の成果と 改善事項について」	アンケート結果について報告
検証委員会 ③	平成 29 年 11 月 13 日 (月) 15 : 00～16 : 30	○第 3 回検証委員会 ○第 2 回会議録の報告 ○アンケート調査結果の分析 ○校長会協議内容	【配付資料】 ・第 2 回会議録 ・アンケート調査結果 ・校長会協議内容まとめ
検証委員会 ④	平成 30 年 1 月 25 日 (木) 15 : 00～16 : 30	○総括 報告書 (案) の検討 平成 31 年度以降の方向性	【配付資料】 ・第 3 回会議録 ・報告書 (案)
報告	平成 30 年 2 月 8 日 (木)	教育長への報告	【配付資料】 ・報告書

様式「教員用」(小学校)

那覇市教育委員会

## 那覇市 2 学期制検証に係るアンケート

下記の項目で、当てはまる項目の(有 無)、(A~D) に○をつけてください。

〔 A: よくあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: 全くあてはまらない 〕

項 目	回答欄
<b>I 教職に就いてから「3学期制」の経験がある</b>	有 無
⇒ I で「有」と答えた方のみお答えください (1) 3学期制と比べ、学期末等の業務は、軽減されている	A B C D
<b>II 2学期制における効果的な教育活動の展開について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください(全員回答)	
(1) 授業時数確保のため、学校行事の見直しを行い、計画的に実施している	A B C D
(2) 休み時間や放課後に児童と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導を行っている	A B C D
(3) 児童にとって「秋季休業日」は、家庭や地域で様々な体験的な活動ができる機会となっている	A B C D
<b>III 学校改革に向けた活力ある取組について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください(全員回答)	
1 【学力について】	
(1) 児童の学力は向上してきている	A B C D
2 【指導と評価】	
(1) 長期休業を含めた学びの連続性が指導や評価に活かされている	A B C D
3 【課題への対応】	
(1) 長期休業前に保護者が学習状況を知る機会がある	A B C D
(2) 「秋季休業日」が設置されたことで生徒指導の課題が増えた	有 無
(3) (2)で「有」の内容についてお書きください	
<b>那覇市2学期制についてのご意見等</b> (3学期制の経験のある方は、比較してお答えください)	

★ ご協力ありがとうございました ★

## 様式「教員用」(中学校)

那覇市教育委員会

## 那覇市 2 学期制検証に係るアンケート

下記の項目で、当てはまる項目の(有 無)、(A~D) に○をつけてください。

〔 A: よくあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: 全くあてはまらない 〕

項 目	回答欄
<b>I 教職に就いてから「3学期制」の経験がある</b>	有 無
⇒ I で「有」と答えた方のみお答えください (1) 3学期制と比べ、学期末等の業務は、軽減されている	A B C D
<b>II 2学期制における効果的な教育活動の展開について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください(全員回答)	
(1) 授業時数確保のため、学校行事の見直しを行い、計画的に実施している	A B C D
(2) 休み時間や放課後に児童と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導を行っている	A B C D
(3) 生徒にとって「秋季休業日」は、家庭や地域で様々な体験的な活動ができる機会となっている	A B C D
<b>III 学校改革に向けた活力ある取組について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください(全員回答)	
1 【学力について】	
(1) 生徒の学力は向上してきている	A B C D
2 【指導と評価】	
(1) 長期休業を含めた長いスパンで生徒の学習面への対応がしやすい	A B C D
3 【課題への対応】	
(1) 長期休業前に保護者が生徒の学習状況を知る機会がある	A B C D
(2) 「秋季休業日」が設置されたことで生徒指導の課題が増えた	有 無
(3) (2)で「有」の内容についてお書きください	
<b>那覇市2学期制についてのご意見等</b> (3学期制の経験のある方は、比較してお答えください)	

★ ご協力ありがとうございました ★



※兄弟が同じ学校にいる場合は、ご家庭 1 枚の提出でお願いします。

様式「小学校・中学校保護者用」

那覇市教育委員会

## 那覇市 2 学期制に関するアンケート

下記の項目で、当てはまる項目の〔A～D〕に○をつけてください。

〔 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない 〕

項 目	回答欄
<b>2 学期制における効果的な教育活動について伺います</b>	
(1) 子ども一人一人の良さが生かされる学校行事が行われている	A B C D
(2) 教師は、子どもと向き合う時間が増えている	A B C D
(3) 丁寧な個別の学習指導や生活(生徒)指導が行われている	A B C D
(4) 家庭では、「秋季休業(秋休み)」を有効(計画的)に活用している	A B C D
(5) 那覇市の子どもたちの学力は向上してきている	A B C D
(6) 夏休みや冬休み前には、学校から学習状況などについて説明を受けている	A B C D
<b>那覇市 2 学期制についてのご意見等</b>	

★ ご協力ありがとうございました ★

## 那覇市 2 学期制検証に係るアンケート

下記の項目で、当てはまる項目の（有 無）、（A～D）に○をつけてください。

[ A: よくあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: 全くあてはまらない ]

項 目	回答欄
<b>I 教職に就いてから「3学期制」の経験がある</b>	有 無
⇒Iで「有」と答えた方のみお答えください (1) 3学期制と比べ、事務業務は、軽減されている	A B C D
<b>II 2学期制における効果的な教育・保育活動の展開について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください（全員回答）	
(1) 幼児の生活サイクルバランスのため、行事の見直しを行い、計画的に実施している	A B C D
(2) 夏休みを利用して個人面談や個別指導を要する園児と向き合う時間を確保している	A B C D
(3) 園児にとって「秋季休業日」は、家庭や地域で様々な体験的な活動ができる機会となっている	A B C D
<b>III 園運営の改善に向けた活力ある取組について</b> ※3学期制の経験のある方は、比較してお答えください 1 【園運営の改善】 (全員回答)	
(1) 保護者の理解を得て、園児の生活リズムが向上している	A B C D
2 【指導と評価】	
(1) 1学期間または、2学期間の長いスパンで園児の遊びの充実を図り、成長の姿を把握できる。	A B C D
3 【課題への対応】	
(1) 保護者が園児の様子や成長の姿を知る機会がある	A B C D
(2) 「秋季休業日」が設置されたことで課題が増えた	有 無
(3) (2)で「有」の内容についてお書きください	
<b>那覇市2学期制についてのご意見等</b> （3学期制の経験のある方は、比較してお答えください）	

★ ご協力ありがとうございました ★

# 2学期制Q&A



**Q1. なぜ2学期制を導入するのですか。**

A. 学期制を見直すことにより、学校行事のあり方を検討し、授業時数の確保を図り、児童生徒や教師に時間的・精神的なゆとりを生み出し、確かな学力の向上及び豊かな心を育成するために実施します。



**Q2. 2学期制のねらいはなんですか。**

A. 一つの学期の期間が長くなる中で、授業や学校行事のあり方などについて創意工夫しながら授業時間の確保を図り、ゆとりの中で教育効果を高めることをめざします。



**Q3. 運動会などの行事は変わるのですか。**

A. 始業式と終業式の回数は減りますが、運動会などの学校行事は、学校教育において重要な役割を担っており、2学期制の下、各学校では、学校行事と教科等との関連性をもたせて取り組むなど、その工夫・改善に努めていきます。  
また学期末整理の時期がこれまでと変わることで、7月や12月など長期休業の前に大きな行事をもつことも可能になり、より柔軟な特色ある教育課程編成が可能になります。



**Q4. 学力低下につながりませんか。**

A. 2学期制では、授業時間も増えますし、なによりも移行するにはどうしても今までの学校教育のすべてを見直し、改革してまいります。そして子ども達がじっくり学び活動できる、充実した学校生活の実現を図るわけですから、そこでは自ら進んで学ぶ「生きる力」も育ち、学力も、当然向上するものと考えています。



**Q5. 2学期制に、問題点はないのでしょうか。**

A. 予想される問題点として、通知表や定期テストの回数が減ることで、  
① 学校での子どもの様子を知る機会が減るのではないかと  
② 実態把握が難しくなるのではないかと  
③ 学習への動機づけが低下するのではないかと  
などが懸念されていますが、個人面談や学校の自由参観、学級だよりの活用等、学校の工夫によって解決できると考えています。  
その他、問題点等があれば、モデル校での実践の中で、改善していけるように取り組んでいきたいと思っております。



【問い合わせ】那覇市教育委員会 学校教育課 TEL(098)832-4166



那覇市教育委員会では、平成16年度より市内幼稚園及び小・中学校の希望する学校において2学期制を実施しています。2学期制は、授業や学校行事のあり方などについて創意工夫をしながら授業時間の確保を図り、ゆとりの中で教育効果を高めることをめざします。

## ◎2学期制とは...



2学期制とは、3学期制で3つの学期に分けていた1年間を、1学期と2学期の2つの学期に分けるものです。

「生きる力」を育む教育を積極的に展開するためには、子ども達により多くの学習時間を確保し余裕をもって学習活動が展開されることが必要です。そのためには、これまでの3学期制より学習時間が多く見いだせ、一層充実した教育ができる2学期制が有効だと考えます。

## ◎予想される教育効果は...

☆始業式・終業式や定期テストの回数減り、その分授業時数を確保することができます。

☆総合的な学習や体験活動などが、長期休業を含む長いスパンでダイナミックに計画・実行することができるため、「学びの連続」の中で子ども自ら学習の計画を立てたり問題の解決を図ることが、より一層可能になります。

☆これまでより長いスパンで、教師は多面的に、よりの確に子どもの学習状態を評価することができるようになります。

☆教師の事務業務が整理された分、これまで以上に個々の児童生徒に対応することが可能になります。

# 2学期制における教育活動の展開例

主な行事	1学期 (4月1日～10月第2月曜日の直後の水曜日)							2学期 (10月第2月曜日の直後の木曜日～翌年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
小学校(幼)	春休み	始業式	入学式	春の遠足	自然教室	教育相談	運動会	秋の遠足	修学旅行	達成度テスト	学芸会	教育相談	(学習発表会)	卒業式	修了式	春休み			
中学校		春の遠足	生徒総会	中間テスト	地区中体連	教育相談	県中体連	期末テスト	運動会	覇地区陸上	修学旅行	達成度テスト	中間テスト	教育相談	総合テスト(3年)	教育相談(3年)	高校入試スタート	学年末テスト	県立高校一般入試

春休みは、これまでと変わりません。

7月中旬の暑さに対応するため夏休みをこれまでより3日早くスタートします。

秋休みを生み出すために1学期の後半を8月25日からスタートします。各学校では、学級の課題研究報告会や学年集会をもつなど、スムーズにスタートできるような工夫をします。

体育の日(10月第2月曜日)をはさんで6日間、秋休みになります。那覇まつりや、地域行事への参加などいろいろな活用ができます。

2学期の後半は、これまでより1日早い1月5日スタートになります。

2学期制の実施により教師は長期休業を活用して事務処理ができるため、個々の子ども達に対し、よりきめ細かい個人指導の時間を確保することが可能になります。

「学びの連続」を意識した長期休業の効果的活用を推進します。各学校では、コンピュータ室や理科実験室など学校施設を開放したり、課題研究日を設けたりして、子ども達の自主的な学びをサポートします。

教師の期末での事務業務が冬休み以後になるので、より一人一人に対応した細やかな進路指導が可能になります。

長期休業前に学芸会や修学旅行など、大きな行事をもつことも可能になります。



## 学期の区切りと長期休業期間



	3学期制	2学期制
学期	1学期 4月1日～8月31日 2学期 9月1日～12月31日 3学期 1月1日～3月31日	1学期 4月1日～10月の第2月曜日の直後の水曜日 2学期 10月の第2月曜日の直後の木曜日～翌年3月31日
休業日	学年始 4月1日～4月6日 夏季 7月21日～8月31日 冬季 12月26日～翌年1月5日 学年末 3月25日～3月31日	学年始 4月1日～4月6日 夏季 7月18日～8月24日 秋季 10月の第2月曜日の直前の金曜日～10月の第2月曜日の直後の水曜日 冬季 12月26日～翌年1月4日 学年末 3月25日～3月31日

## 導入計画

- 平成15年度
  - 2学期制検討委員会設置
  - 2学期制検討委員会からの提言
  - 実施希望校募集
  - リーフレットの作成
  - 学校管理運営規則の改正
- 平成16年度
  - 実施モデル校(幼・小・中3校ずつ)での試行
  - 2学期制実施校連絡協議会の設置
  - 2学期制実施校連絡協議会からの提言
- 平成17年度
  - モデル校以外の幼稚園及び小・中学校の2学期制への参画
  - 学校管理運営規則の改正
- 平成18年度
  - 市内全校での実施(予定)

